

環境への意識が高まる中、住まいの設備や家電の省エネ化が急速に進んでいる。中でも注目したいのがガス。高効率で熱を上手に使いきる省エネの工夫に加え、安全、ヘルシーな生活に配慮したさまざまな最新機能をチェックした。

沖縄ガス

ガスで快適エコライフ - 省エネ性・安全性・環境性向上



ガラストップで、掃除もらくらく



上は直火、下はバーナーで両面から焼ける両面焼きグリルで調理を幅広く

環境と家計負担軽く 新エネルギーに期待

住宅の設備機器選定では、生活に合った使いやすさはもちろん、「省エネ性」「経済性」も重要な要素。特に「エネルギーを効率良く使うこと」は、これからの快適な暮らしには欠かせない。一つのエネルギーから熱や電気など複数のエネルギーをつくり出す「コージェネ

レーション」システムのガス製品開発や、安全性を高める取り組みで注目を集めているのがガス。楽しい食生活を支え、家計に環境にもヘルシーな暮らしを実現する。安全を守るSiセンサー

まず身近なキッチンのガスコンロ。炎が鍋底に集中し、効率良く燃焼するタイプ。また、安全装置「Siセンサー」が標準装備され、安全性も高まっている。吹きこぼれた際自動でガスを止める「立

止消え安全装置」、消し忘れ自動消火機能、天ぷら火災を防止する「調理油過熱防止装置」など安心機能が満載。沖縄ガスの担当者は「高齢者のいる家庭にも、自信を持っておすすめできます。そのほか、バーナーの間隔が広いのもポイント。大きな鍋が使いやすく、行事ごとが多い家庭にも便利

ち消え安全装置」、消し忘れ自動消火機能、天ぷら火災を防止する「調理油過熱防止装置」など安心機能が満載。沖縄ガスの担当者は「高齢者のいる家庭にも、自信を持っておすすめできます。そのほか、バーナーの間隔が広いのもポイント。大きな鍋が使いやすく、行事ごとが多い家庭にも便利

スタイルに対応できます」。家庭用新エネルギー

このほか、消費エネルギーの割合が高い給湯についても、「ecoジョーズ」などの新しいガス給湯器では、排気熱を上手に利用することで95%の高効率を実現。これによりガスの使用量を10~15%カット。CO₂の排

出量・光熱費も削減できる。「省エネを図るには、製造・輸送・消費にかかる環境負荷をトータルで考えることが大切。これはエネルギーの場合も同じ。単位電力当たりの環境負荷が全国一高い沖縄ではなおのこと。そこで、新エネルギーとして期待されているのが、家庭用燃料電池「エネファーム」。「LPガスから水素を取り出し、空気中の酸素を利用して自宅で電気とお湯がつくれます。発電から利用時までのロスが少なく、火力発電で発電する従来のシステムに比べCO₂排出量を約30%削減できます。太陽光発電と併せて利用すると、さらに省エネ効果がアップ。既に県内でも第一号の設置が完了。今後、より普及に力を入れていく方針だ。



さまざまなガスコンロの新機種が並ぶ沖縄ガスの展示スペース。安全性や機能性など確認できるほか、ガスや電気のCO₂の排出量などをまとめた資料もパネル展示してある

ライフスタイルに合わせエネルギーを選択する時代へ
マイホーム発電「エネファーム」

新エネルギーとして期待が高まる、家庭用燃料電池「エネファーム」(写真は、新日本石油株のエネファーム)。水素と酸素を化学反応させ自宅で電気をつくり、発電時に出る排熱でお湯を沸かす。燃焼せずに発電するので空気を汚さずCO₂排出を削減。光熱費も軽減できる。「利用者の生活パターンに合わせ、省エネ効果の高い時間帯に自動運転を行う学習機能やお湯切れ時のバックアップ機能も搭載。快適なエコライフをサポートします」と話す沖縄ガスの担当者。現在は高額だが、補助金など自治体にも働きかけ普及を目指したいとしている。

環境・家計への負荷が少ない暮らしを実現するため、生活エネルギーについてしっかり考え、組み合わせを工夫する必要があるだろう。

ENE-FARM

